

改訂 史跡勝尾城筑紫氏遺跡整備基本計画（案）  
概要版

鳥栖市教育委員会

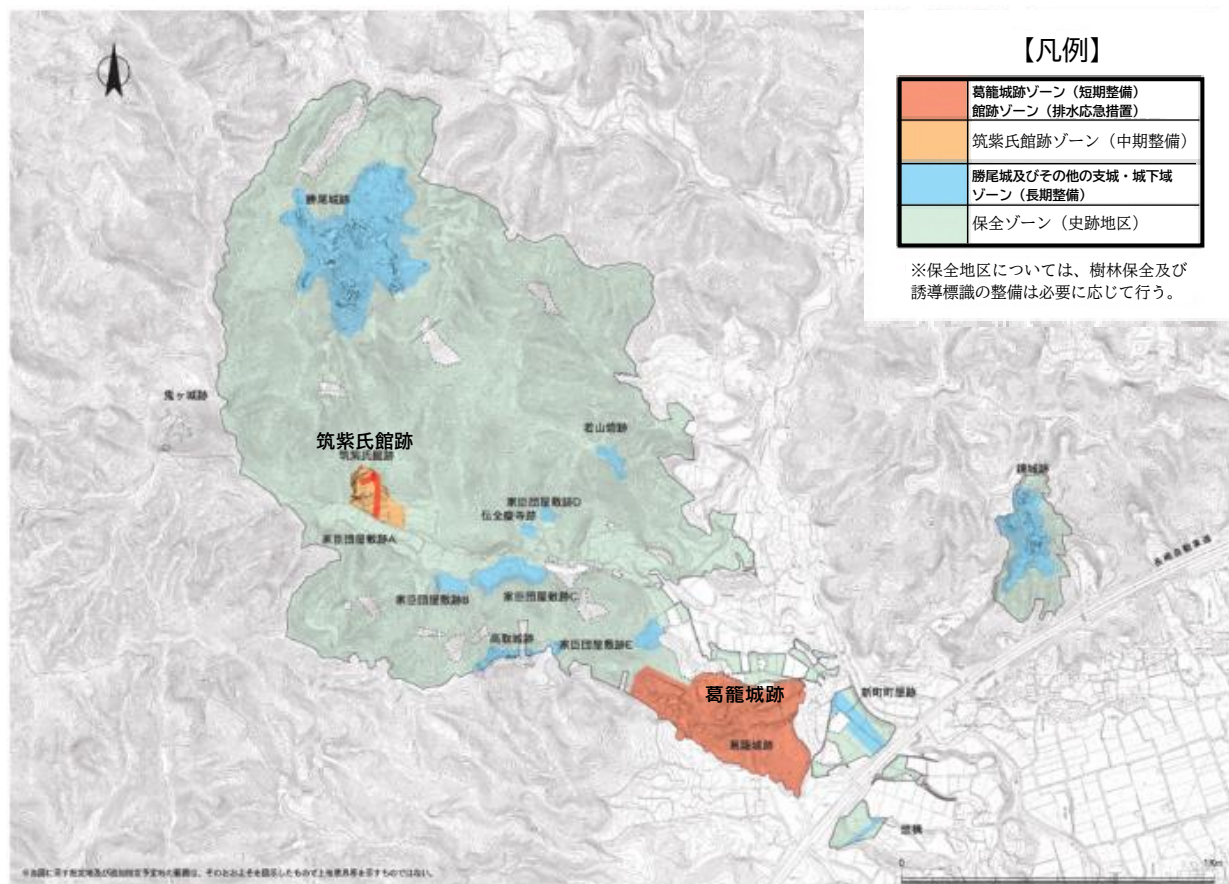
## 1 整備基本計画改定の経緯と目的

かつのおじょうちくし し い せ き  
勝尾城筑紫氏遺跡は、戦国時代の山城群や屋敷、町屋をはじめとする城下町遺跡が良好に残る学術的にも価値の高い貴重な文化財として、平成18年1月に国史跡に指定され、平成22年2月と平成24年1月に追加指定が行われ、指定面積は約230haに及びます。

遺跡を訪れやすく、戦国時代の遺構も良好に残る葛籠城跡の整備を進めるため、平成24年度に整備基本計画を策定しました。しかし計画の進行に遅延が生じ、また、筑紫氏館跡では近年の豪雨により遺構への影響が懸念される状態にあります。

このことから、葛籠城跡の整備を推進し、筑紫氏館跡の溪流の排水に応急的措置を施して遺構の毀損を防止することを目的として「整備基本計画」の一部を改訂します。

平成24年度の整備基本計画からの改訂点は、①葛籠城跡の整備スケジュールの変更、②筑紫氏館跡の排水応急措置の追加です。



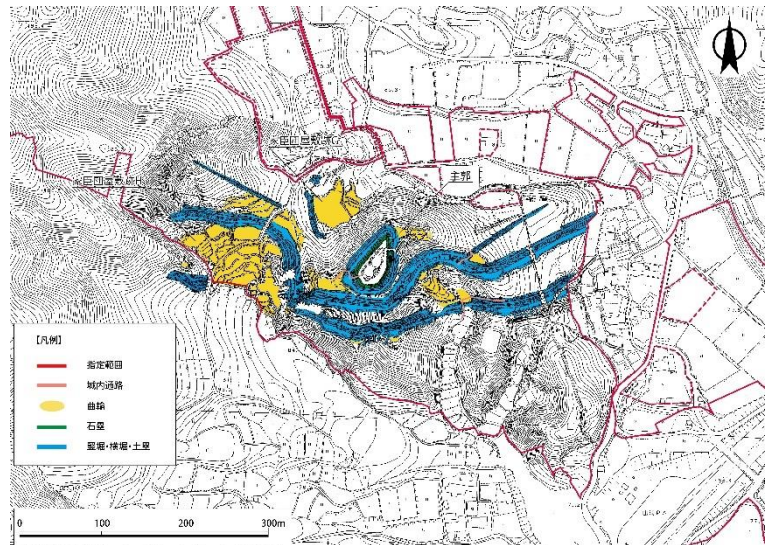
## 2 史跡勝尾城筑紫氏遺跡と葛籠城跡

### (1) 史跡勝尾城筑紫氏遺跡

勝尾城筑紫氏遺跡は、鳥栖市の北西部にある城山（標高約 498m）の山頂と、南山麓の尾根と谷に広がる、戦国時代の 15 世紀末から 16 世紀後半の約 90 年間にわたり、筑紫氏が本拠とした城下町の遺跡です。東西約 2.5 km、南北約 2 km の範囲に、本城の勝尾城跡および高取城跡、葛籠城跡、鏡城跡、若山砦跡などの支城群と、筑紫氏当主の居館跡、家臣団屋敷跡、寺社跡、町屋跡、巨大な惣構跡や、空間を画する長大な空堀などの遺構が良好な状態で残存しています。

### (2) 葛籠城跡

葛籠城跡は、勝尾城の南東部、標高 126m の丘陵に築かれた支城です。谷の出入口にあたり、戦いになれば防備の最前線となります。丘陵の最高所に築かれた主郭と、西側の丘陵の中腹から安良川まで延びる約 700m の長大な空堀が特徴で、最大の見どころです。主郭からは、町屋跡や惣構の空堀、本城の勝尾城や支城群を見ることができます。また、空堀は、現状で 5 m 以上の深さがあり、戦国時代の山城の強固な防御態勢をうかがうことができます。



## 3 整備の基本理念と基本方針

### (1) 基本理念

戦国時代の城下町を体験し、学び、イメージできる、  
史跡と自然環境が調和した勝尾城筑紫氏遺跡

史跡整備を行うことで、勝尾城筑紫氏遺跡の本質的価値（戦国時代末期の有力国人領主の城下町のあり方がわかる遺跡、戦国期の歴史を考えるうえで重要な遺跡）を保存し、未来へ継承します。また、歴史学習の場や市民の憩いの場、観光資源としての活用を図り、地域活性化につなげます。



このために、来訪者が勝尾城筑紫氏遺跡の本質的価値を理解し、戦国時代の山城と城下町を学び、体験できる整備、安心安全に史跡内を探訪できる整備、市民とともに史跡をまちづくりに活かす体制整備を行います。

また、遺跡を取り巻く豊かな自然環境や生活環境と史跡との調和を図り、市民をはじめ多くの人々に親しまれる史跡として整備します。

(2) 基本方針

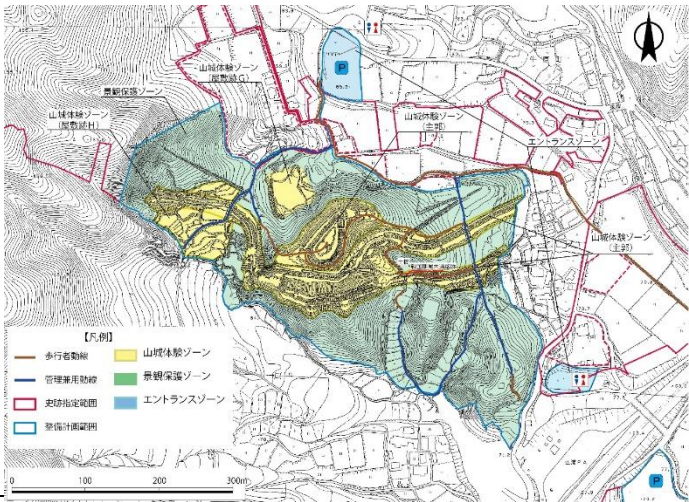
- ① 自然環境と調和した遺跡整備
- ② 遺跡の特徴を活かした整備
- ③ 来訪者の利便性に配慮した整備
- ④ 防災安全に配慮した整備

4 計画の対象と事業期間

本計画は、葛籠城跡地区の整備と筑紫氏館跡の排水応急措置を対象とし、令和8年度から14年度までの7年間とします。

5 葛籠城跡の整備計画

葛籠城跡の整備は、葛籠城の特徴となる長大な空堀や周囲を眺望できる主郭などを見学する一方で、豊かな自然環境を楽しみながら安心安全に探訪することができるように動線やサインを中心に整備を行います。



区分	内容
山城体験ゾーン	戦国時代の雰囲気を経験するゾーン。 ①空堀・土塁 ②主郭 ③屋敷跡に適した整備方法を採用します。
景観保護ゾーン	自然環境を楽しむゾーン。 長期的に健全な自然環境づくりを目指します。
エントランスゾーン	葛籠城跡の導入となるゾーン 北と南の2カ所とし、南からも見学できるようにします。



葛籠城跡整備計画

### (1) 遺構保存計画

山城体験ゾーンにある戦国時代の遺構は現状を保存しますが、動線付近の空堀や土塁で、動植物や自然現象によって毀損した箇所は選択的に修復し、山城の雰囲気を感じられるような整備を行います。

### (2) 遺構復元計画

主郭の南東の谷部で見つかった空堀を渡る土橋を復元して葛籠城の出入口（虎口）とその周辺の防御態勢や当時の通路を示し、葛籠城跡を体感できるよう整備します。

### (3) 動線計画

空堀や土塁、石垣などの遺構を見学するだけでなく、自然環境を楽しむこともできる遊歩道的なルート設定を行い、歩きやすく来訪者に配慮した歩行者動線とし



ます。

また、山城へ本来出入りしていた南側からのルートを設定し、南側にエントランスを整備します。

#### (4) 修景・植栽計画

山城体験ゾーンは、遺構の保存を図るとともに来訪者が山城の雰囲気を楽しむため、見通しや眺望の確保に配慮しつつ、快適な史跡散策の環境づくりを目指します。

景観保護ゾーンは、健全な森林環境づくりを目指します。

#### (5) サイン計画

サインは、統一性のあるデザインで、来訪者が理解しやすい内容とした遺構名称サインや誘導サイン、規制サインを新設します。

地区説明板や遺構説明板は、現存のものを引き続き使用しますが、多言語に対応する工夫を施します。

葛籠城跡の主要動線の入口には地区標柱を整備し、来訪者が入りやすい環境づくりを行います。

#### (6) 便益施設計画

山城体験ゾーン（主郭、空堀・土塁、屋敷跡）やエントランスにベンチを設置し、休息施設とします。

南エントランスには、史跡景観と調和したトイレの設置を検討します。

#### (7) 地盤保全・獣害対策計画

葛籠城跡の縁辺部を中心に地盤保護と崩落防止等の対策を行います。また、イノシシなどの害獣被害への対策を行います。

## 6 筑紫氏館跡地区の整備計画

筑紫氏館跡は、雨水等の排水による遺跡の既存を防ぐため応急的な排水措置を行います。

近年の気象変動による豪雨で遺構の保存に影響を及ぼしていることが懸念されています。このため、本格的な史跡整備の前に応急的な対策を講じ、遺跡の保護を行います。本格整備を行うときには改めて一体的に整備を行います。

また、史跡整備に向けた発掘調査を実施し、より詳細な内容の把握に努めます。

